

月初拂下米代金保增、一時的に金繰
 為八十ニ銀行ニおき、之ヨリ百萬圓ノ
 貸出アリタル以テ、融資人カ他カ先向ニテ
 各社ノ年評(根拠)、莫カクシバ、マホノ、五増
 七十五萬圓、口ノ、一、枚、出、五、百、五、拾、萬
 圓、以、外、ハ、年、中、ケ、テ、〇、債、社、債、ノ、枚、出、人、ニ
 一、ケ、テ、一、通、月、ノ、金、融、概、算、年、調、視、ニ、推
 移、セ、リ

加々快事奉行中ノ還候及并長始ニ
月中還收銀八百七萬八千圓ト
前月ニ比シ三百四拾六萬四千圓ノ増カリ

明治七年穩健裁月ヤリ

1. 預金別塔加号

二 預金

五、二〇、預金

吉座 四、五、五、二、二、
4月

特吉 八、九、四、五、五

吉野 一、五、五、三、二、八

其他 三、四、二、五、七

計 三、三、四、五、六、二

四、米、比

六、四、五、
4月

一、一、一、〇

一、三、二、三

二、〇、三、七

五、一、一、九

本年三月(至)塔

三、三、九、八、
4月

六、二、五、六

二、二、八、二

一、〇、五、七、八

2. 取引先塔加号

五、二、〇、預金

八、十、二、二、五、〇、七、一、
4月

15、四、三、三、三、三、三

十、四、一、一、一、一、一

毎、日、七、五、〇、四、二

四、二、〇、比

一、三、三、七

三、九

一、一、一、九

代理店

自店

支
拂
一〇一〇六
五七六九

二、四二五
四九三

支
振
四三三七

一九七二
六三〇九

支
出
支
出
支
出

三
超
支
六、四六二

教員俸給分担
八一四

食
費
二、二九五

市町村交付金
五五五

鉄道
入
一、四九五

市町村交付金
四七〇

租
税
一、一三三

手
売
七四一

支
出
支
出

五月五日 約日五拾萬圓
拾日 約日五拾萬

四月 約日五拾萬
四月 約日五拾萬

支
出
支
出

六月甲午屋記
况ハ新副花
中

屋事屋記
况ハ

一、此等工程之經費係由國家撥給
其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

其經費之分配如下：
（一）中央國庫
（二）地方國庫
（三）地方自治經費
（四）地方教育經費
（五）地方衛生經費
（六）地方警察經費
（七）地方消防經費
（八）地方其他經費

東郷下成等 各ノ端如自リノ筆初等 四ノ五下向一

引揚越過ノ前年比一ノ五下更ノ日端ノリノウニ

既行一ノ年比ニハ 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

二ノ月ノナリテ 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト 既ト

乃乃乃乃 月出此降 此例一若若果 同信望之屋

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

繁化ヲ是ニ限リ

此ノ時ニテハ既ニ行キテ一月出ル降ノ定ルニ轉シ

此日迄ハ一應無事ナリ

同日下

前年ノ如クニ

同日ノ如クニ

此日多ク曇ルナリ

此日曇ル有ル者ナリハ此日僅ニ十ノ下ノ止ニシ

此日前年ノ如クハ是迄ハ一部到リ中書亦到

此日亦已ノ下ニ一紙ノ書ニ中書亦到

運送ニ因テ

昭和十一年六月二十九日

松本支店

岩手県 盛岡市

能登郡 能登町

三月五日 下好調 1 倍 7 取 等 能登郡 能登町 岩手県

三十四日

（印）

此 元 引 確 手 帳 額 才 本 帳 身 引 元 能 登 郡 能 登 町

（印）

一 回 百 十 日 下 日 十 日 年 四 月 日 本 帳 身 引 元 能 登 郡 能 登 町

（印）

本 帳 身 引 元 能 登 郡 能 登 町 一 倍 七 取 等 能 登 郡 能 登 町

（印）

岩 手 県 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市

（印）

岩 手 県 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市 盛 岡 市

（印）

下 同 二 日 下 日 十 日 年 四 月 日 本 帳 身 引 元 能 登 郡 能 登 町

（印）

明一割者名儘一紙解
高白下下日
結借若法備一

三月十日
掃
結屋出多り、引揚百下日

高一此以屋物屋物
家結屋引此案
羅りり

高屋物物物
此下名儘
此徳結以法屋

高屋物物物
此下名儘
此徳結以法屋

高屋物物物
此下名儘
此徳結以法屋

高屋物物物
此下名儘
此徳結以法屋

高屋物物物
此下名儘
此徳結以法屋

高屋物物物
此下名儘
此徳結以法屋

高屋物物物

新設の銀行
（支那銀行）
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

支那銀行の設立
（支那銀行）

總算
一、撥給
二、...
三、...
四、...

出、...
中、...
一、...
二、...
三、...
四、...

一、...
二、...
三、...
四、...

...
...
...
...

...

...
...
...
...

...

...
...
...
...

...
...
...
...

計
...
...
...
...

...

...

...

前年加増多量に因り 6,150

ノル・ノールに地価が因り 6,000

借入金 2,200

自己資金 1,400

計 11,750

3月1日現在 借入金 1,400 自己資金 1,400 借入金 1,400 自己資金 1,400

前年比 借入金 1,400 自己資金 1,400 借入金 1,400 自己資金 1,400

2月1日現在 借入金 1,400 自己資金 1,400 借入金 1,400 自己資金 1,400

1月1日現在 借入金 1,400 自己資金 1,400 借入金 1,400 自己資金 1,400

12月1日現在 借入金 1,400 自己資金 1,400 借入金 1,400 自己資金 1,400

昭和十八年七月三十日

現月中屋敷親殿宛

松本友記

吉本公堂様宛

御筆紙に物出進し今も書在望屋の年月二十日

出渡 二十日迄一故出紙 八日七十五分内 昨年同紙

二回百二十五分内少増也 (諸位期以降一筆計三ヶ)

七十 分内 昨年紙 二百七十分内 (倍) 也 本紙屋

紙一紙二の若日紙也 四百六十分内 子二紙屋

竹屋一激増 書神下公堂様宛 本紙屋 諸位紙也

一引物出進の 九百九十分内 (倍) 也 本紙屋

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

同業の船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

船行に船屋の在りし處に船屋の二つありしを船屋の二つありしに改めし

即得... 下... 後... 也...

如... 方... 似... 也... 為... 子... 德... 性...

比... 運... 轉... 及... 身... 子... 體... 宜... 於... 一... 能... 隨... 心... 而... 轉...

心... 也... 以... 一... 千... 比... 的... 他... 如... 日... 如... 電... 氣... 以... 是... 物... 轉... 成... 信... 以... 一...

新... 運... 造... 之... 下... 地... 之... 不... 能... 回... 心... 以... 在... 此... 以... 之... 能... 一... 能... 動... 性...

誠... 是... 矣... 矣... 有... 道... 之... 得... 其... 心... 子... 固... 一... 一... 能... 乃... 乃... 能... 一... 一...

十... 年... 記... (circled)

所... 年... 意... 意... 觀... 者... 一... 欲... 亦... 刻... 一... 轉... 在... 已... 除... 矣... 也... 一... 十...

了... 記... 乃... 一... 能... 以... 平... 一... 亦... 能... 轉... 一... 亦... 是... 亦... 一...

何下ノ己ハ名年ノ如クナリ

(無事)

(自多ノ理ヲ知悉スルナリ)

子ハ何行ノ也ナリトナリテ外ニ事ナシ
海ノ制ガ有ルニ至ルナリ
此ノ理ヲ知悉スルナリ

今ハ此ノ理ヲ知悉スルナリ

之ノ理ヲ知悉スルナリ

送ハ心ノ理ヲ知悉スルナリ

昭和十一年七月三十一日

松本 友 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記

一 芳社 烟 出 出 給 事 務 記 芳社 烟 出 出 給 事 務 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記 芳社 烟 出 出 給 事 務 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記

芳社 烟 出 出 給 事 務 記

一月甲路 / 午方内 = 入り口の計 = 船行船屋の

既船船屋 (二日台田) 同船名船屋 船名高船船屋

引出アリ / 夕日船 船引船行船屋の 船月船屋

僅力午 / 船少 船名入り口 船行 / 午計の 船一船

通 / 船一船

二 / 東京船屋 船行 / 船屋 船行 船屋 船屋 船屋

船屋 / 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋

船屋 / 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋 船屋

船屋

船屋

船屋

清純無此作
二〇、七、一四
一、九、四、五
三、七、七

草紙拾十
九、五〇〇
三、四〇〇
五、一〇〇
二、八、一、〇〇

口本一紙十
九、一〇〇
一、六〇〇
〇、〇〇〇
〇、六、九、〇〇

下在...

了、皆精熟、料、不足、及、日、在、是、等、物、也、是、居、此、一、紙、口、本

運、送、方、地、日、り、山、心、字、法、居、一、塊、動、機、機、造、一、紙、口、本

平、下、一、即、中、回、此、之、能、多、い、故、度、工、的、株、造、造、の、心、解、

下、取、口、紙、の、マ、の、五、月、毎、二、紙、造、造、紙、也、(一、年、造、造、紙、也)

一、紙、口、本、(一、紙、口、本、三、紙、口、本、也、一、紙、口、本、三、紙、口、本、也)

各、部、品、類、一、不、足、元、紙、下、一、已、年、年、紙、紙、下、一、又

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府 蘇州府

七月中迄五月中概況

概況

季末繁忙裡ニ截至ル後リ業々五子初ニ入ルニ

重跡依此一引續ニ天通月際ル強調裡ニ推勢也リ

即4月中旬(1)帝皇移御ニ伴リテ代預引

上九百九拾四萬圓ノ多額ニナリ、五月ニ了結

購置資ニ至リ帝皇要八百七拾七萬圓縣本聯

秀スル共同融資四百六拾萬圓大口貸出相續

タレ一方系聯方面ノ預金ノ引去ニ弱轉シ

18.8.21

昔の製糸線決算の由例月、如く帳調士に
 了情びあり名を各所、年評一筆、窮屈
 任り来し^{不足}月、決算の中央短貨市場、例
 月強調、持済の映に殆ど当の貸出は後々
 ナルリ得サル状態トナリ、月中当の貸出は
 八百拾萬圓、月末殊に壹千零萬圓、高利に
 引^レ繁忙に成り

二 預金

三月三月月有始調ヲ持流増カハ一途ヲ延レル

銀行預金ハ本月ニ入り、其莫資金ノ兩面要目

盛トナルツレ産預預金同業共預金才優ニリ

タル大口引出アリタル為増カハ一頓挫ヲ来シ

前月末比五拾幾萬圓ト及ニ減カリ示セリ

(三月十日現在) サレト節便貯金ハ六月末迄

貯ノ後ノ系ケ例年其増カハ年又月ナルカ

者考了) 却預金ノカ又入新ヨリ推測スルハ引流

112
 12
 4
 下
 出
 カ
 ツ
 平
 ス
 マ
 ト
 的
 待
 サ
 ル

人
 預
 金
 別
 増
 加
 高

七 二〇 現在	六 末 比	前 年 七 二〇 比
高 座 四 八 五 五 一	二 五 〇 五	四 一 七 〇
村 立 九 三 八 八 九	二 三 九 八	二 〇 二 一
支 那 一 六 〇 一 九 九	九 三 七	二 一 七 四 一
其 他 三 七 三 一 一	一 三 五 七	二 八 五 九 七
計 三 三 九 九 五 〇	五 三 〇	七 四 七 三 四

取
引
先
別
増
加
高

七 二 〇 現 在	六 末 比
八 二 二 五 八 九 三 〇	二 一 二 二
収 入 三 五 七 一 二	三 二 六
支 出 一 五 八 二	三 〇
貸 付 七 六 七 六 三	二 九 四 八
	五 三 〇

三月下旬より迄激トナル事萬貨金一救去

本月ニ入り来ぬ由廻トモニ漸ク奉救化シ

(三日翌夜八百七拾七萬四圓) 相場境期以降救去前

累印一ニ千七拾壹萬圓ト前年(三日翌夜)比シ

二百七拾七萬圓増カク事也カ一才制之條

資金以カ一救復去又月平来未聯

一救スルハ一カ三行ニ共同純貨金四百六

拾萬圓ノ旨トモ時局其係ニシテハ一

然レ去カニ来平アリ此知語其辨ハ確合ニ

糸下世地... (月) 繁花... せんか... 断
断... 事... 今... 月... 流... せん... 下... 者... へらん

④ 高橋 一 貸付

月下取引は銀行の製糖貸付に

取引と大口取引は才木製糖

集積の多量に於ては製糖の

中ニはコネイノ大口取引は

中央短資市場の狭隘化に

年々増大する生シ要資に

高橋一はコネイノ大口取引

高橋一はコネイノ大口取引は

月未。彌亨。千。與。多。百。七。拾。萬。圓。の。記。録。也。

(二)

好日ハ下旬縣内ハ要債金總額百拾萬圓ヲ

奉交ヨリノ金ニ充テヨリタルハ倍々出却七拾萬

圓八十ニ例年ノ要債金ノ大半ヲ奉

交市一市場ニ需メ見トコト昨今中央市場

要請ニマネリノ取入(米)難タルヲ持リ

快シ月百參拾萬圓ノ出却ハナキ

是現銀ノ差

入 債 金	出 債 金	上 旬	中 旬	下 旬	入 債 金 の 差
一 〇 〇 〇	三 八 〇 〇	二 九 五 〇	八 〇 〇	一 三 七 〇	一 六 八 〇
二 八 〇 〇	一 〇 〇 〇	二 一 五 〇	一 三 七 〇	一 三 七 〇	九 三 〇 〇

(三) (一) 庫金

月中 当座 (一) 庫金... 引 流中 費入 記了)

三十三日 其ノ前 及 五十一日 麥拂 七三、八、九

a. (一) 庫金 聖佛ノ一 (三十七日 記了)

代理 各 合

自 各 人 尺

一 三 九 二 六

麥 二 三 三 三 六

五 九 〇 〇

一 三 九 二 六

拂 四 七 四 四

五 二 六

五 二 七 〇

計 〇

麥 八 五 九 二

六 四

八 六 九 六

五 主 七 〇 〇 〇 二 (三十七日 記了)

但 租 二 〇 〇 二

手 元 九 二 一

銀 送 一 一 六 四

子 記 也 一 〇 三 八 二

台 帳 差 理 二 六 七 六

拂

一 千 三 百 六 十 七 三 五

銀 送 拂 八 〇 〇 四

(四) 銀行券

上記ノ如ク月中、諸貸出金、預金引出

本ニ相当額ノ現金撥布ニナリタルヲ推測

サルニ引流リノ庫ニ重ノ差入額(=

本行力ノ還取)亦良好ニシテ月中

還取額六百拾七萬七千圓ト云月々

五百拾萬九千圓ト云年々一月比

式格貳萬五千圓ノ増カマ平セリ

費取
還行

上旬

一八四・〇六〇

四三六・九九五

四一八・五〇三五

中旬

六一〇・四六五

二六三・七七二

二〇一・七・三〇七

下旬

二一九三・一六一

一七一七・六〇〇

四七五・五六一

六六七・九三三

以
以

支店長

次長

十月中金銀概況



銀行預金の前月振込貯金、飛躍の上伸に注意

期終飾因係より前月記録の増量より更に後より減少

現金勘定に及ぶの短期預金、減少に比し一増減

預金、東京送付、公債預金別出等より、二倍現在

残高は四億三千万九千四百八十圓、比し九十五下

千四百減少

一方一般貯蓄に因る二ヶ月貯蓄額より二十日現在

煙口二十三日一回増加止止しん
製糸業の盛衰

夏場の晩物は精算代金、晩に物産代金の計上

(昨日の夜多量製造は計上せず同日計上(至道)百六十七千円)

の新設放出アリ、三十日迄一紙増加額二百四十万

六千円の上り)同日減高の五千百三十三万九千円ト前

年同日の比に五十五万七千円ト前年比高増減高

(十月十五日)の比に十三万九千円ト前日の上り比に二二七リ

為月半の比にの差は製造は計上の比に二日計上(至道)二百十三万五千円下り

一紙一紙の製造多量に上り(至道)一紙一紙の製造一紙一紙

送金に在る製造業の増減の経緯の如き製造業の増減なり

業の送金に在る製造業の増減の経緯の如き製造業の増減なり

八月中旬一千三百三十万内(内八百三十万)在田

五百四十万内(一高野=土)高野系經營市場

再録比二基園二二及一遊屋(八十五)一百万内(二P)

りし金融施設別録と見也二、八月中八十五万

高野の収三百六十万内、在田の収三百三十万内計

高野九十五万内、中書高野一流十御、在田の収

高野の収出の十一日、高野二万二千八百四十万内(二)

八月末二千九十万内、前月比二六十万内(三)

高野の収二千九十万内、前月比二六十万内(三)

二十三日... 本年... 在... 五

午... 三百... 本年... 五... 五

目下... 本年... 大月... 五... 五

下... 本年... 本年... 五... 五

通... 食... 本年... 五... 五

本... 本年... 本年... 五... 五

精... 本年... 本年... 五... 五

因... 本年... 本年... 五... 五

本... 本年... 本年... 五... 五

うゝ、多量の古紙を焼くのは、高嶺の

東の山脈の北に、古紙の焼く山脈の

古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

又、古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

古紙の焼く山脈の北に、古紙の焼く山脈の

振節忠義... 地... 城... 通... 運...

之十... 海... 知... 件... 用...

姓... 姓... 姓... 姓... 姓...

雜件... 一... 八... 十... 臨... 時... 議... 會... (一... 年... 六... 日... 三... 十... 九... 日...)... 同... 條... 也... 云... 云...

一... 十... 九... 年... 在... 夏... 秋... 間... 上... 海... 總... 領... 事... 官... 署... 呈... 報...

一... 一... 九... 一... 四... 年... 閏... 五... 月... 十... 日... 將... 署... 長... 官... 職... 任... 表... 示... 云... 云...

(五... 九... 一... 三... 十... 四... 日... 五... 一... 日...)

一... 據... 查... 該... 署... 領... 事... 官... 署... 呈... 報... 云... 云...

一... 該... 日... 上... 日... 記... 載... (一... 五... 日... 假... 署... 領... 事... 官... 署... 呈... 報... 云... 云...)

（最下銀行）主要部定（二十日現在）

現金	1,235.5	前月比	現金	400.319	前月比
有価証券	1,965.5		債権	500.179	
国債	1,250.0		株式	700.152	
地方債	715.5	X	通債	1,290.5	
地方債	1,260.5		定期	1,660.0	
地方債	1,900.0		普通	450.128	
貸出金	1,522.8		振込	1,660.0	
貸出金	513.9		定期	2,260.9	
貸出金	1,009.9		短期	600.0	
			長期	1,660.0	
			貸出	1,000.0	
			借入金	2,000.0	
			短期	1,600.0	
			長期	400.0	
			前月比		

単位千円

二、銀行存款利息

銀行	本月	前年同月
還收	一七三六	三二五〇
支出	八九九七	二五二一
差額	七三六一	八一一一

三、存款利息

存款	本月	前年同月
支出	一三二〇〇	五二一〇
收入	四三六〇	四一〇〇
差額	八八四〇	一〇一〇

四、國庫券收支(現金)

國庫券	本月	前年同月
支出	一九五九	一四二二
收入	四三六九	四三六九
差額	二四一〇	二九四七

主心
理
金
收
支

收

支

租稅	四一五七
車費	九八八
膳造	二二〇八
造租	八二〇五
倉稅	三〇三八

軍費	五二九
膳造	九五九
車費	五二五
倉稅	六四五
餉銀	二五六

日中金融概況

昭和十八年十二月二十七日

松本支店



年末金融經濟狀況

一、製糸資金ノ需要増嵩ト流動性減退ヲ主因ニ新蒔期以降銀行ノ金繰ハ異例的逼迫ヲ告ゲ（別紙（一）参照）當店ノ八十二ニ對スル貸付ハ十一月末二千百四十万圓ノ高額ヲ示現シ金融緩和ヲ見サル儘年末ヲ迎ヘタリ。先ヅ上旬ハ些シタル變化モ無カリシガ中旬ヨリ年末資金、木材資金ノ外企業整備關係資金等ノ需要相踵ギ二十日現在銀行ノ一般貸出増加額ハ五百四十三万圓ニ迫ビタルニ對シ製糸資金ハ日蠶會社ニ對スル共同融資ノ重複モアリテ回收僅カニ三百三十七万圓ニ過ギズ（本年度最高

期以降回收三百四十九万圓、昨年比一千百三十万圓著減、別表(二)(三)参照。差引總貸出ハ二百六万圓ヲ増加セル上國債消化四百四十七万圓アリ、一方預金ハ當座ニ於テ現金預ケ金及貸出ノ増加ト見合ニ五百七十四万圓ヲ膨脹セル外ハ公金預金、日蠶會社預金等ノ纏リタル引出アリテ伸力激々、此ノ間食糧代等預金店ヨリノ引出行ハレ旁ト八十二ニ對スル當店貸付ハ更ニ五百十萬圓ヲ加ヘ金繰頓ニ繁忙ヲ呈シタリ。下旬ニ入り連休ノ關係モアリ年末資金等需要一段ト幅濶セルガ東京短資市場ノ豫期以上ノ潤澤化ニ惠マレ八十二マホノ取入、ローン回收等一千十萬圓、安田同金七百十萬圓ノ資金手當行ハレ當店貸付ハ五十萬圓ヲ縮少、本日殘高二千六百萬圓ヲ示シ居リ茲數日預金ノ動キ、國債

消化等ヲ見込ムトキハ東京短資市場ノ推移如何ニ依リテハ當店貸付モ更ニ増嵩スベキモ、一般ニ自肅氣分徹底シ年末景氣、増稅發表ニ因ル影響等見ラレズ大勢堅調ヲ持シツ、平穩越年スルモノト豫想セララル因ニ當店銀行券ハ十三日以降出超ニ轉シタルガ本日迄ノ累計二千五百九十万圓ト昨年ニ比シ五百九十五萬圓ノ増加トナリ居レリ。

一、戰力增強企業整備ノ一環タル管内製糸業整備ノ推移ヲ見ルニ日蠶會社ニ參加セル長織維百二十九工場二万二千三百三十四釜中操業三十三工場八千五百五十四釜（整備前釜數ニ對スル比三一%弱一以下同様）ハ二、三ノ例外ヲ除キ接收完了、轉用又ハ廢止九十六工場一万四千八百八十釜（五三%強）ハ十一月末ヲ以テ悉ク操業停止、此ノ内比較的目星シキ

モノ三十三工場ニ付テハ既ニ決定セル轉用計畫ニ基キ、爾餘ノモノニ
付テモ徹底的協力工場等トシ爲シ得ル限り轉用ヲ企圖シ（何レモ航空
機、通信、光學關係ヲ主トス）目下製糸工女ヲ其儘引繼ギ勞務確保ニ
努メツ、銳意轉換中ナルガ今日迄稼働五、準備中四十五ヲ算シ居レリ
之等ガ全面的ニ轉換完了ノ上ハ既存ノ大小時局産業工場約二十ト併セ
管内ハ可ナリ有力ナル工場地帯化シ戦力増強ニ資スル處アルベシト期
待サル、ガ然シ轉換ニ當リ工女ヲ其ノ儘引繼ギ從來製糸經營ニ於テ積
ミタル經驗、訓練等ヲ生カシ得ル點ハ一ツノ強味タリトハ雖モ一面製
糸工場ハ概ネ狹隘、脆弱ニシテ尠カラズ擴張、改良ヲ要スル處之ガ資
材特ニ木材及勞務等ノ入手思フ様ニ行カザル憾アリ、更ニ機械設備、

動力、輸送、勞務等生産諸條件ノ制約ヲ免カレザレバ實際稼働ニハ相當ノ時日ヲ要シ早クトモ來年四、五月頃カト豫想セラル、整備ニ依リ又少ラツテ化セラルベキ釜數一万四千百八十、附屬設備一切ヲ併セ重量大約四一五千噸、更生金庫處分代價約一千百三十四万圓ノ見込

右ノ結果管内長纖維ハ日蠶會社不參加二十四工場三千九百八十九釜ヲ加ヘ五十七工場一万二千百四十三釜（四六%強）ト全國豫想操業釜數六万釜ノ約二割ヲ、又短纖維ハ參加、不參加ヲ併セ九工場五百六十三臺ト全國現存臺數ノ一割六分ヲ占メ此ノ消化原料繭約一千万貫（十九年度計畫生産量五千三百万貫ノ一八%強、此ノ内管内生産量桑園四万七千町歩、反當十貫五百ト押ヘ約六百八十万貫）ニシテ絶對數ニ於テ相當ノ縮少ヲ

見タルモ尙舊業樞要ノ地タルヲ失ハス

一、過渡期ニ於ケル製糸資金ハ繭價ノ大幅引上ゲ接收工場ノ能率低下、轉廢工場ノ原料固定、日蠶會社ニ對スル共同融資ノ重複等ヨリ要資増大セル上流動性著シク減退シ爲ニ最高期遅レ殘高増嵩シ最高期以降ノ回歸遲々トシテ進マザル等全く變則的様相ヲ呈シ金融壓迫ノ主因ヲ成シ居レリ（別表(二)及(三)參照）

斯クテ業者ノ奮起、日蠶會社ニ於ケル能率促進策、迅速ナル接收代價ノ決濟、轉廢工場ノ原料處分等要望セラル、處ナリ

尙製糸資金ハ今後其ノ大部分ガ共同融資ニ移行スルコト、ナリ之ニ伴フ金利低下ト直接融資對象ノ喪失ハ銀行經營上影響スル處甚大ナルガ

之ハ轉換地元工場トノ新結合ニ依リ或程度償ヒ得ベキモ一面國內態勢
強化方策ノ推移ト睨ミ合セ經營ノ刷新ヲ圖リ解決ヲ策スベキ問題ナル
ベシ

一 月中金融概況

一 銀行券還流調

昨年十二月下旬迄超累計ハ三三、一〇、八千円（前年比五、七五二、千円増）ニ

対シ十二月三十一日以降一月十八日迄ノ還超累計ハ三〇、九三五、千円

（前年比三、〇〇四、千円増）回収率九三、四〇、ト昨年ノ一〇二、〇%

ニ比シ鈍調ヲ示レタルガ、右ハ主トシテ法人、他人ノ手持現金増加

ニ由ルモノト見ラレ、官倉収収ハ一段ト促進ノ要アリ

二 預金並ニ貸出

預金ハ昨年十二月下旬一、九二、四、四、千円ト記録的増加ヲ示セル

19. 2. 18



後ヲ承ケテ月平均七、五三一十ノ増加ニ止リタルガ、昨年同期カ四、〇四七

ノ減少ナリシニ対比シテ是ノ増調ト云ヒ得ヘシ 之ヲ税金概算額ニ

見ルニ、持当、定期ヨリ、普通、振込（ノ）振替依然後ヲ絶テサルニ

振込ノ新設増加月之ナリ

貸出ハ、（鐵道）及（日産會社）、（地産會社）ニ対シテ、共同融資、（製糖會社）・（大正）

放、貸出アリタルニ、一方製糖會社ノ回収一、二五五之十ニ追ヒ詰局

目下ニハ五〇十ノ減少、当座貸越ハ製糖會社ノ回収ヲ概

以テ著減

三、製糖會令回歸狀況

製糖會令八月五日令社二社共同融資三、五〇〇千円、存是工場

貯蔵工場、職能、工資ノ退職手金、諸社等ノ過渡期の資金、

年要ニ下リテ八月八、九八四千円ノ新設貸付ヲ見タルニ、月給

令社ノ存是工場ニ計之ル原料兩代令ノ支払貯蔵行ハ

月中定率回収額一、二五五之千円ニ過ル際局ニ二七二千円ノ減少

上ナリ、高島期以降一月未返、回収率ハ二四、三ノ上例年ニ

比シ回収著シク減退セルハ、月給令社ニ計之ル共同融資ノ重複

貯蔵工場ノ手持原料荷接收未着手、燃料、労力不足ニヨル

銀貨能率、低下^年 = 甚因^年 之^年 元ノト見^年 ヲル

四、多^年 貸出

前述^年 之^年 如^年 年未^年 貸入、回歸、銀貨能率、回復^年、何^年 し^年 也

鈍^年 謝^年 ヲ見^年 上、東京^年 証券^年 市場^年、狭^年 港^年 化^年 年^年 情^年 ヲアリ^年 テ

八十二^年 銀行^年 = 計^年 之^年 当^年 貸出^年 昨^年 年^年 異^年 例^年 (二六、千。四^年 四)

比^年 降^年 一^年 四、六。〇。〇 十^年 月^年 手^年 減^年 少^年 之^年 元^年 月^年 手^年 残^年 高^年 存^年 一、九。〇。〇。四^年 四

ラ^年 時^年 越^年 セ^年 リ

五、国民^年 貯蓄^年 増^年 加^年 概^年 況

(三〇、〇〇〇、四^年 四)

如^年 卜^年 国民^年 貯蓄^年 増^年 加^年 概^年 況、補^年 整^年 之^年 如^年、十^年 二^年 月^年 末^年 手^年 引^年 目^年 標^年 定^年 額^年

達為辛一〇之、五五名此内、市街地信用組合、一三一、一三二、一三三、

（報知、預金一〇六〇八六二〇八）

男之、好、公、結、二、三、千、萬、近、信、用、組、合、預、金、郵、信、片、令、之、二、
（西、三、）

尚、年、度、平、近、一、回、持、訓、目、標、ヲ、含、ム、近、加、日、標、ハ、平、度、月、標、ノ、

三、五、之、九、八、〇、〇、〇、千、円、以、上、ト、決、定、ス、

省戶統計

(單位：戶)

	一月	前年同月	前年比
一、銀行存款	六八一	二一八〇	△一、四七九
發行			
還收	三〇、四九二	三八、二五一	△二、二四五
差引還起	二九、八一五	二六、〇九一	△三、七二四
一、為替			
流出	六、八五〇	一六、三五〇	△九、五〇〇
流入	二、二二〇	四、六九〇	△二、四七〇
差引起	四、六三〇	一一、六六〇	△七、〇三〇
一、國庫北金收支			
支	二、三五二六	一四、九七九	△八、五四七
加	九、一一〇	四、一三二	△四、九八〇
差引起	一四、四〇六	一〇、八四三	△三、五五三
一、國債者印紙	一	一三三	△一、三三
一、當所能出 (八十三分)	一一、九〇〇	〇	△一一、九〇〇

雜件
十月五日

一月十一日 單季合社中一以指定表

本報同位 信越化學工業

指定金額相同 (之符) 八十二部子

一月二十三日

本報金額指七汁區表

米 一八三才石 麦 八六六才石

本報一特二雜穀二度

一月二十八日

本報注ヨリ生種及組織雖ヲ物初汁區ニ編入

本報卷商月標能七五。不

一月二十九日

十八年度全國收商表

本報 七月四才石 (本報比 八十五才石)

五月中金融概況

五月中預金ハ定期、普通等定着性預金ノ延力引續キ順調ナルニ加ヘ當座、大口増加並ニ織維製品小賣商業組合整備ニ依ル特殊預金ノ増加四百二十
八萬圓了身結局三千二百八十八萬圓ヲ著増、貸出ハ中旬迄地區木材會社
ニ對シテ實績共助金給付資金百二十八萬圓ノ外大口ノモ、チ力身ノ下
旬ニ至リ課訪生絲問屋置絲商共同應援組合ニ對スル政府生絲擔下代金一
千六百六十萬圓（白二十一中一萬一百俵分）ノ大口貸出了身前月比一千
四百七十二萬圓ヲ増加セリ

縣内軍需工場ノ資金需要モ未ダ巨直莫ク預金ノ増勢頓ニ顯著ナルニ對シテ
ノ貸出對象ナル縣下銀行ハ貸許手續餘裕ヲ見セ、餘剩ハ國債（八十二、
四九六〇千圓）興業債券（八十二、五百萬圓）買入ニ充テ或ハ東洋銀行

19. 6. 30



元月甲金取概況

○千金 月甲 四七、八七一千円増 月末残高 五四八、七五一円

19. 7. 20

月甲ノ至ニ受入 到債金 何之期 九百円日系 日倉金社ノ取付 翌年亦ニ付ス

要請 補債 助金 其他ノ特殊 千金 九百円日系 取付 債 何 算 金 三百円日系 地正 未 地

有 何 和 込 金 三百円日系 特殊 事情ニ基テ 九百円日系 四百円日系 之ニ上リ 終 行 四 千

七百円日系以上ノ増加 一前年 九五三、二千圓 之ニ付 從來 毎月 少クモ 三百円日系

度ノ増加ノ是レニ 概 是 所 金 何 却 少ク 三十一円日系ノ減少 到債 金 何 之

期 千 金 何 取 集 行 如 是 一 不 二 一 大 口 申 込 一 八 万 圓 特 許 金 何 概 算 云

相 当 千 金 何 由 ナリ

○貸去 月中増加 四一〇八千円 月末残高 一八〇七二八千円

変更金庫 之百三十一万四一〇円繰上関係之百円 日巻金水百五十一万四千円等

特種手帳上ノ見合記算 並ニ 勘本水ノ共 即ち給付資金 百二十一万四千円ノ外

新規貸出ニ連ルベクノナリニ及ニ 銀行生糸関係施設組合ノ大口入金

下リ貯貯貸出ハ 僅カニ 四百十八万四千円トテ 増加額ニ及ニ 八百一十

一萬八千二百餘円ニ 和テハ 日巻金水十九年度繰上資金 (總額 三億四

千八百一十二萬五千三百三十三円) 共同貯蓄ニ 月中給一千万五千円ヲ 収出

七二五 千五ノ 趣意ハ 十二 打 極 年 貯 蓄 金 出 御 一 千 一 萬 千 円

（昨年貸上残高五、四〇〇万也） 二、一回収差は千円増加、新に上り是也、

増一、一、男近同行に於ては従来唯一の大収資先と認め奉る也

直接、稼働を絶せし。加ふに新設車庫合祀の資金は大部分

中更よりの運賃を以て増し、此之を修繕に用ひ是れ其の力と為。茲に

収資能は儘小なり。同行之月中の増進借入金三百五十万円

高利の借入を以て、毎月の借入は月平均一千二百五十万円と推し

予し、銀行春日九百八十万円と推し。是れ是れ也。

七月中金就概況

六種金 月中増加 三八、二五五十四円

内金 三〇、一八三十四円

安田 七、四〇四十四円

郵便 九、九七十四円

預金増加八萬七千七百九十九円、割増定期一十七萬六千九百九十九円

日倉金純肉俾特別千金一十三萬五千五百八十七円、特別事情ニ基テ之ノ一、千

普通貯金ハ却リテ六百六十九円、大口減少ヲ見タリ、共八十五萬

零八千六百七十九円、由是合就金九千九百九十九円、其ノ一、二萬一千六百七十九円、其

ノ一、一萬九千六百七十九円、其ノ二、一萬七千六百七十九円、其ノ三、一萬七千六百七十九円、其

口引出、片未買金、松本アリ、後述、如、新現、貸土十十、元不拘
手評、家居化、片未、町要買金、八者、其、貸去、一、御、片未、七十、不、四
下、近、部、也、元、高、九、百、万、四、千、餘、錢、也、リ、

二、貸去、

八十、二、地、本、其、松、本、也、買、金、(松、本、其、金) 元、百、万、四、千、日、金、今、元、二、十、二、也、

之、百、万、千、万、四、千、圓、比、更、生、金、庫、一、二、十、二、也、四、百、八、十、万、四、千、大、口、是、

合、結、算、アリ、(前、日、未、也、二、百、四、十、七、千、四、百、) 予、金、總、計、二、十、二、也、貸、去、也、

予、二、百、四、十、七、千、四、百、前、日、比、貸、金、向、上、七、二、也、右、以、外、一、貸、付、

八部子 三十不日、或少ヲ示也

支店長
大

八月中金融概況

○ 月中予金ノ増加ハ九十一万四千ト前月(三十八万六千)ニ比シ

著シク鈍調ヲ示セルガ右ハ七月設ケセラレタル長野縣地才

木材今秋ノ地延金一十三万五千(八十三、特別当座) 岩林申金

予金五百万日計一千万日ノ大口引出アリタル結果

ニシテ右ノ勘案スレバ大体一千万日程度ヲ増加

セルモノト見得ルニ猶本年初素ノ一月半約三千万日

万日増ニ比シハ一千万日ノ劣勢ヲ示セリ。

19. 9. 17



(2)

而レテ預金増加鈍化セル原因ヲ考ルルニ、先ブ企業整備

ノ一段落ニ依ル特殊予金ノ減少目立テ僅カニ三十ニ百

前月一三ニ六ナリト、六・七兩月ニハ割増

定期ノ取扱アリテ予金有ノ意味ヲ峻リ兩月共一十ナリ

ヲ獲得セルニ對シ本月ハ別段新規ノ手段ナカリシノミナラス

割増定期ノ好成績ノ及鄭トシ申タルミノ現象ヲ呈シタ

ルコト等ヲ擧ゲ得。高農産物、林産物等ノ供出代

金ノ振替徹底、並ニ大口引出ノ制限（従来ハ大口ニ懸

(3)

マレハ銀行予金ニ預入替セシタル場合多シ。隣保組織ヲ

通スル貯蓄利率ノ強化（此令ハ郵便貯金・信組予金トナル率

多シ）等モ銀行予金増力ニ相違ノ影響ヲ及ボスモ、ト

云フベク將來好ト銀行予金ハ特別ノ場合ヲ除キ、ニ半

万円税及ノ増加ヲ常態トスベシト思ハル。

尚九月一日ヨリ八十ニガ取扱開始セシ荒鷲貯金ハ

別ニ新規ノモノニ非ズ振込貯金ヲ利用、預金者貯

蓄組合ヲ結成セシメ振込期間ニ年、利率三令三厘

(4)

(半年毎複利)ノモノナルガ一応ノ効果アリトハ云ハ、サシタル
期待ハナシ得ザル模様。

○他方貸出ハ地本社ニ付セル八百才日(貯蓄)ノ他親規

需要毎ク却ツテ地本社ヨリ三百才日ノ大口返済マアリ

該寸八百二十才日ヲ減サセリ。八十ニハ國債買入五百

才日、興銀債五十才日、戦金債五十才日。同行ノ手許一筆

裕ヲ示サズ、當社貸出五百五十才日ヲ繰越。

予は勿論予のトクハカ多事筆友邊りヨクハ本格的ニ

善及可レハトニナラフ

産虫防止対策ニ就テ

一 産虫指違者根ヲ殺スルニ再々精スコトニ就テ本館ニ就テ

ハ取テ一様ナラシムルニ切實ニ取テ行フニ就テ

予知蒙ルニハ、再々ニカクハト云フ様ナ何有ルニ就テ

或ハ虫果エツテ殺テ何モ又防虫ニテクハ良イナハ

ナカト云フ様ナ取テ防虫ニテクハ良イナハ

予知蒙ルニハ、再々ニカクハト云フ様ナ何有ルニ就テ

若三石一の殿は、山才許行、のこし、公市にカ、若三石の家

集也、こい、ト云、テ、振、テ、却、テ、若、三、石、の、割、の、趣、テ、コ、ト、イ、

一、又、若、三、石、の、殿、は、若、三、石、の、手、の、物、に、ト、云、フ、コ、ト、イ、ハ、若、三、石、ヲ

十、作、也、也、ト、ハ、若、三、石、の、家、ト、云、フ、若、三、石、の、家、カ、主、人、ヲ、像、ニ、ト、イ、ト

テ、ク、振、テ、古、イ、テ、方、レ、コ、ト、イ、カ、ア、ラ、ウ、カ、共、ニ、テ、國、家、ノ

儀、儀、等、第、ト、云、フ、観、止、テ、ラ、ウ、コ、ト、イ、ユ、ン、テ、感、傷、ハ、若、三、石、

ハ、キ、コ、ト、イ、

三、石、カ、誠、花、子、ト、云、フ、ハ、一、ツ、ハ、若、三、石、ノ、誠、實、ヲ、行、ヒ、ト、云、

テ、振、テ、若、三、石、ノ、家、ノ、主、人、ト、云、フ、ハ、一、ツ、ハ、若、三、石、ノ、誠、實、ヲ、行、ヒ、ト、云、

四、カ表可製作部、杉本精蔵之系ヲ認目見ス

(中)

小岩井製作部ハ之等セロ人、ステレスノ下帯ノ下海軍艦山ノ
板ノ木中(橋岡純部等也)ヲ製作、又海軍艦艇製造之部ヨリ
純利之組ヲ選シ近ク本校ノ完ナリト。

最近ステレス鋼橋者ニシテ右取ニ回着クテ管者(女名不明)認目
一切ヲ買収シ現在地附近ニ規模ヲ下ニシテ作業セント云
ハシテアリトノ事 (中系ヲ認目)

西者ノ
互目他
照原

杉本精蔵ハ三十去ニ社名係ノ登記ニ終了。杉本内照様
ニ親近ク解散、今社名係ノ計算トシテハ分属者利益施設後
(事務所等)ヲ建造ニ外ハ似似ナシトノ事ナリ

(池上孝三男 道吉氏)

下之ヲ精細な会紀ニ致ルニト、トシテ、(現在部会ノ意見ニ
 力一五倍十二万(中全米多シ) 部会会十力月ヲ一
 定ニ、所会紀ニ果標極加ニ修規ニ業部会ノ一を云ニ
 手知会紀考加ニ不適格者ニ部会ヲ、腹ニ其ニ未シノ
 部会部内ノ部会ニ加ナノ以テ、

(林)

○ 林部ニ部会共同作業計ニ、軍事部ニ海軍艦隊隊員
 人加ニラテシカ、陸軍部ニ果然部ニ業部会ヲ、
 三十二ニ軍ニ持ッテ部会ヲ、三ノ部会作也、
 三ノ部会ニトテ、
 産ス。

○ 工部局ニ、部会共同作業計ニ、
 大部会ヲ、供出セリト。

○ 軍事部ニ、部会共同作業計ニ、
 リ部会共同作業計ニ、
 部会共同作業計ニ、
 部会共同作業計ニ、

五月中會記概況

○月申視氣一定期普通等定有性預念、近力引該平順調ナルニ

加ハ、高座ノ大口増加並ニ織維則不足小売高業組合整備ニ依ル

持殊視念ノ増加四月二十八日ヨリ終方三十一日ニ至ルハ十八日ヨリ著隆。

他方貸出ハ中旬迄地区米研會社ノ共助金給付資金百二十八万四千

外ナシナルニノ銀行ノ手許引續ニ余額ハ國債六十一萬四九百方圓

聖業債券(六十一萬四九百圓) 及び東送(一十一萬四九百圓)ナリ

和洋米研會社同座米研會社同座米研會社組合ニ計スル

國各米研會社保費以計生利概ナ代念一十一萬四千九百二十方圓

(百二十一中一十一萬四千九百圓)ノ大口貸出アリ、亦々月目未定念希望也

者所為替之下旬三百五万ノ入振。

地頭八十二ノ口ノ同収之了也。期内軍需ノ防ノ資金希薄ニ付カ

十二ノ目之ヲ公品進ニ付テ、福金ノ増勢致ニ顯著ナルニ、好箇、貸

出村系ノ、昨下冬貯金ハ、新許ノ許金額ヲ見セ居リ

三、邦下膏商状況

(1) 養蚕戸数：十三万二千戸と昭和十三年（十三万九千戸）を以て終

ニト異動せず、然るに、軍需工場への進出等により、労力ハ主としてテ

老幼婦女子ニ依存し、外無ク、労力不足ハ受レズ。

(2) 桑園面積：主要な食糧作物に転換セリテ、昭和十三年、二十万町歩

ヨリ四十万七千五百町歩ニ減少。此等尚、是兩目標確保ハ為

望節度八十八万五千町歩支出。桑苗一十二十五万八千本、手立

十セリ。右桑苗ハ、總利令が買上価格、約半額ヲ以テ

養蚕ホニ配付スルモノニテ、一及劣大伴ニ百本ト見レハ

約千七百軒が合をきいて、主要食糧増産に邁進し居る。現在、改地

新地をハ左シタル。耕作ヲナシ得ズ。結局現在、四千八百軒が維持

を得ル。上々ト見らる。而レ肥料、肥料不足等ヨリ桑葉ノ生育

悪シ慮セラレ。加フルニ、三、四月ノ天候不順ヨリ各地其桑葉相多

遅レタルニ、其後天候恢復ニヨリ桑葉ノ生育良好、初虫等々

双ニド直ノ。相多ノ残葉ヲ見ル。植播ナリ

(4) 耕作状況：当初天候不順、桑葉ノ生育不良等、肉保ヨリ

今年ニ比シ相多遅延ヲ想セラレタルニ、五月以降ノ天候恢復ニ

見直ニ、船下ノ早降下伊那方面ハ昨年ヨリ三日遅レテ五月十一日、中信才由

ハ五日遅レ十八日、此位才由ハ昨年同様十八日ヨリ梓立開始

春ノ迄着ハ各地共良好、下伊那才由ハ今月中用上程開始

十九日ハ、延ニ日暮、合水工場ニ、持込アリ、カニガ、早見、海部、是ニ

夏、中信才由ハ、今月二十三日ヨリ至存、七月十日迄カ去廻

品、全期トテ、想ニ、カ、梓立、即、是、勞力不足耳、海軍情ニ徴シ

極、高、是、ハ、日、標、ニ、百、九、十、七、万、是、ニ、対、シ、受、取、ニ、百、五、十、万、是、ト、是、レ

町下春荷收穫状況ニ関シ御尋常送附紙即報告申上候

(1) 本年度春荷若蚕戸數ハ十三万二千戸ト昭和十五年(十三万

九千戸)ニ比シ茲ニド豊額十千戸、熊呂、熊徴等ニヨリ另力不足ハ

及シズ 惟蚕共同飼育、全般のニ行ハレ此内平均八割ニ

達シタリ

(2) 桑園面積ハ主要倉糧作付轉移モアリテ昭和十一年

云万町キヨリ四万七千五町キ、減少ハ三月四月ノ天候

不順ニ登芽相多ニ過レ、懸念モラレタルガ五月ニ入レ天候回

復、早草ノ登芽相多ニ過レ、且霜害皆無ニ喜ラレ、其後ノ登芽

良好、相立、残葉、見たり

(3) 坪立量、当初天候不良、葉登音不良等、尚作あり

平年比、遙延、予想、心、五月以降、天候恢復

長野縣下銀行預金貸出高

秘

昭和19年5月末現在

日本銀行松本支店

項目	月末残高	前月末	比較	前年同期比較	
					月
預金	當座預金	80,163	24,904	32,015	
	特別當座預金	60,522	(-)	31,217	
	通知預金	15,877	(-)	6,354	
	定期預金	133,353	5,423	39,066	
	諸預金				
	合計	539,178	46,294	172,960	
貸出	割引手形	4,219	2,285	1,221	
	手形貸付	166,268	10,998	70,749	
	證書貸付	31,794	3,223	2,115	
	當座貸越	8,763	877	1,002	
	合計	211,044	17,383	68,853	
コール・ローン	12,100	6,400	9,000		

備考 本表ハ長野縣銀行兩支會加盟銀行ノミニ配布スルモノトス

(-)ハ減少ヲ示ス

長野縣下銀行預金貸出高

秘

昭和19年5月末現在

日本銀行松本支店

項目	目	月	未	殘	高	前	月	未	比	較	前	年	同	期	比	較
預	當座預金		61,898				10,347					17,172				
	特別當座預金		59,072			(+)	1,865				(+)	30,317				
	通知預金		12,280				1,854					1,842				
	定期預金		126,529				5,084				(+)	39,344				
	別座預金		4,500				855									
貸	普通貯蓄預金		52,659				6,219									
	定期積金		127,147				2,491									
	納税準備預金		4,120				396									
	國債貯蓄預金		641				339									
	待残預金		5,509				1,450									
出			14,195				5,712									
コ-	(内種別)															

備考 本表は長野縣銀行同業會社兼銀行ノミニ配布スルモノトス

(一)ハ減少ヲ示ス

一、全國共榮製糸組合長野支部結成

19. 6. 3-
19. 9. 9

小諸純水館、杉本鐘紡、普及社、下伊那天竜社等全國共榮製糸組合員
中有カナルメムバール擁スル縣内製糸業者ハ業者ノ横斷的連絡ヲ圖ル爲且ハ連
絡交渉團體結成ノ必要工豫テヨリ同組合長野支部ノ結成ヲ目論ミ居リタルガ
五月十三日天竜社ニ全業者二十一名會合結成式ヲ舉行新榮足ヲナセリ。
因ニ支部長ハ天竜社長木下輝一氏、事務所ハ長野市産業會館内ニ置
クコト、決定、尚縣内業者ハ全國會員四十四名ノ半数ヲ占メ現在迄ニ軍
監督工場ニ指定セラレタルモノ、普及社外五工場ナルガ相当數追加指定セラ
ル、モノト見ラル。

二 本年度寒天生産高

當縣特産トシ全國産額ノ大半(他ニ岐阜縣、大阪府ニ於テ産ス)ヲ製造シ来レ
ル茅野ヲ中心トスル當縣寒天製造業ハ數年来勞力、原藻ノ不足等ノ事情ヨ
リ逐次衰微ノ一途ヲ辿レルガ昨年度ノ整備ニヨリ業者數モ最盛期(昭和
十三年—十五年)ノ一九九名(三一六釜)ヨリ一七一人(一七七釜)ニ減少、生産高モ十五
年ノ七百方円ヨリ四百五十方円ト半減セリ。 公定價格八十貫建四百七十五円
四十五錢(税込)ナルモ本年ハ單ノ需要激増旁々生産量ノ減少モアリテ各縣
寒天荷受組合ヲ通ズル家庭用寒天ノ配給ハ極ク少量ノ見込。 尚生産高十一万
貫ノ内細天ハ其一割ニ滿タズ。 外貨獲得ヲ目的トシ細天ノ製造ニカラ注ガタル數年
前ト大イニ趣ヲ異ニシ居レリ。 品質ハ産地ノ減産ニ基ク本草(天草)ノ不足ニヨ
リ雜草(エゴ、オゴ等)ノ混入率増加セル爲良好ナラス。
又原藻不足ノ爲製造期間モ十二月二十日—一月二十日ト例年ニ比シ短ク、使用
人夫モ最盛時ニ於テハ三千五百人ニ上リタルモ本年度ハ一千三百人ニ止リタリ。

上旬中票計

(單位十圓)

	發行	還收	發還超
銀行券	348 360	7987 7270	7530 7637 7270

爲 答		流入	流出	入出超
	八十二		2200 ^v	1000 ^v
安田		1000 ^v	2050 ^v	
內藏頭		800 ^v	0 ^v	
	計	4000 ^v	3050 ^v	1000 ^v

預金店	代理店預金			手形貸付	
	殘高	預入	引出	殘高	前旬末比
安田	890 ^v	1290 ^v	2050 ^v		
八十二	170 ^v	0	3760 ^v	0	X

中 旬 中 原 計

(單位千圓)

	發 行	還 收	發 還 超
銀 行 券	406 [✓] 206	6,580 [✓] 6,276	6,174 [✓] 6,190

	流 入	流 出	入 出 超
八 十 二	500 [✓]	1,600 [✓]	
安 田	250 [✓]	2,700 [✓]	
內 藏 頭	0	0	
計	750 [✓]	4,300 [✓]	3,550 [✓]

代 理 店 預 金				手 形 貸 付	
預 金 店	殘 高	預 入	引 出	殘 高	前 旬 末 比
安 田	992 [✓]	1,140 [✓]	1,000 [✓]		
八 十 二	220 [✓]	0	2,610 [✓]	0	X

下旬中票計

(單位千圓)

	發行	還收	差還超
銀行券	2,864 4,619	4,210 4,000	4,54 14,765

爲替	流入	流出	入出超
	八十二	4,100	500
安田	650	1,300	
內藏頭	100	0	
計	4,850	1,800	3,050

代理店預金				手形對付	
預金店	殘高	預入	引出	殘高	前旬末比
安田	650	2,550	2,900 2,700		
八十二	670	0	2,700	0	X

冊 202 - 06
 入 = 055 - 320

月初來累計

昭和19年 6 月 日

(單位千圓)

	發行	還收	差還超
銀行券	4,619	1,000	1,426.66
補助貨、小額紙幣	1,270	2,240	28,090
	157	131	26

倉 蓄	流 入		流 出		入 出 超
	八十二	安田	八十二	安田	
	6,800	1,900	3,900	6,050	
		900			
	9,600		9,950		350

代理店預金				手形發行	
預金店	高	預入	出	高	前月末比較
安田	1075	6,000	4,000		605
八十二	65.2	0	9,070	0	X
		5,000	13,070	12,495	

國庫金現金收支					
受			拂		
代理店分	19,600		代理店分	10,091	
自戶分	8,619		商店分	3,292	
租 稅	3,509	地方分與金	軍 專 費	3,100	地方分與金
專賣收入	1,617	健康保險	俸 給		營林署拂
鐵道 "	1,942		鐵 道 拂	10,400	專賣預託
過 超 金	14,635		軍專補助	16	農商送金
食糧管理	2,801		木炭露上拂	8,240	市町村交付金
特別會計	7,000		院、官拂		大藏省送金
軍預託	100		一般 計		海軍省送金
健康保險			健康保險		陸軍省 "
專賣預託			郵便局金		航空本部送金
					警備費送金

長野縣下銀行預金貸出高

秘

昭和 19 年 6 月末現在

八十三 合計 日本銀行松本支店

項 目	月 末 残 高	前 月 末 比 較	前 年 同 期 比 較
	千円	千円	千円
預 金	當 座 預 金	53,421	1,533
	特別當座預金	51,915	11,494
	通 知 預 金	9,846	2,437
	定 期 預 金	83,978	11,878
	普 通 貯 金	76,607	3,968
	据 置 貯 金	103,703	(-) 673
	定 期 積 金	4,357	237
	納 税 準 備 預 金	926	350
	國 債 貯 金	4,911	925
	特 殊 預 金	18,986	8,050
	別 段 預 金	2,554	(-) 597
	合 計	411,214	39,552
貸 出	割 引 手 形	1,846	(-) 1,499
	手 形 貸 付	108,583	4,566
	證 書 貸 付	13,616	7,250
	當 座 貸 越	5,667	89
	合 計	129,712	10,406
コ ー ル ・ ロ ー ン			19,777

199,435
~~199,345~~

長野縣下銀行預金貸出高

秘

昭和19年6月末現在

安田會計

日本銀行松本支店

項 目	月 末 残 高	前 月 末 比 較	前 年 同 期 比 較	
預 金	當 座 預 金	9,710	(-) 299	(-) 120
	特別當座預金	17,473	2,002	(-) 909
	通 知 預 金	5,110	247	417
	定 期 預 金	39,150	1,637	(-) 3,926
	普 通 貯 金	10,729	901	}
	据 置 貯 金	21,972	447	
	定 期 積 金			
	納稅準備預金	132	77	34,655
	國 債 貯 金	1,234	193	}
	特 殊 預 金	3,364	1,917	
	別 段 預 金	0.50	20.5	
	合 計	109,740	7,407	30,029
貸 出	割 引 手 形	107	(-) 567	(-) 105
	手 形 貸 付	19,166	(-) 6,336	3,903
	證 書 貸 付	599	322	499
	當 座 貸 越	1,417	200	109
	合 計	21,369	(-) 6,373	4,566
コ ー ル ・ ロ ー ン				

長野縣下銀行預金貸出高

秘

昭和19年6月末現在

勸銀合計 日本銀行松本支店

項 目	月 末 残 高	前 月 末 比 較	前 年 同 期 比 較	
預 金	當 座 預 金		(-) 37	
	特別當座預金	3112	(-) 69	
	通 知 預 金		(-) 51	
	定 期 預 金	17,398	541	
	普 通 貯 金	320	19	
	据 置 貯 金	1,261	13	
	定 期 積 金			
	納 稅 準 備 預 金			5,582
	國 債 貯 金	530	48	
	特 殊 預 金	1,950	138	
	別 段 預 金	3,226	143	
	合 計	27,797	833	7,476
貸 出	割 引 手 形			
	手 形 貸 付	4,066	(-) 396	1,830
	證 書 貸 付	25,621	471	(-) 1,319
	當 座 貸 越			
	合 計	29,687	75	511
コ ー ル ・ ロ ー ン				

支店 十一月甲管財金融概況

次長

(一) 預金 前月中純増僅カニ四、四七〇千円ト停滞セル後ヲ承テ、是

期ノ一〇、三三四ニ千円ヲ主トシ、一七、九三三ニ千円ヲ増加セルニ、之ヲ

前六ヶ月平均増加額ニ比スレバ可ナリ遜色アリ前月ニ引続

キ伸力鈍化シ居レリ、之ガ原因トシテ管内企業整理ノ一

段落ニヨリ九月末迄平均五、七〇〇千円程度ノ受入アリタル

特殊手合ノ取扱激減セルコト及ビ十一月ニ於テ中割

相定期ノ如キ特殊の事情無カリシヲ擧ゲ得ルモ最近

諸情勢ヨリ又レハ管内銀行手合ノ増加ハ今後精カ

此種皮ノモノト多ヘラル、尚振置貯金満期分ハ大体定期ニ

振替ヘラレワ、アル模様ナリ

(二) 貸出 十一月甲地本社ニ計スル貸出皆無ノ他、新規貸出ハ八十一

二ノ額計航空ニ計スル運貯資金一、三〇〇千円ヲ降キ大口ノ

モノ無カリシ及面、月星レテ回収モ無カリシヲ以テ

結局一八三五千円ノ微増ニ止リタリ

内製糖資金ハ最高期(九月末)五三、三五四千円(前年十月末五三、五八
九千円)ヨリ五九四三千円ヲ減シ月末残存四七、四一一千円ヲ示セリ

(三) 八十二ノヨリ並ビニ爲替戻回收入一、一〇〇千円ニ上リ当法
爲替ハ井中一九、四五〇千円ノ入超ヲ示セルガ八十二ハ右ノ
内ヨリ七五〇〇千円ヲ当法ヨリノ借入金返済ニ充テタリ

(四) 国庫金ハ過超金(二〇、〇〇〇千円)租税(六、〇八五千円)ヲ主トシ差入
合計四一、三三二千円ニ上リタレニ計シ支払ハ軍手費(二〇、三〇千円)
鉄道(二、〇三三千円)農林省関係(二、六七二千円)等合計
一四、四一三千円ニ止リタレハ差引二六、八一九千円ノ受超トナリ
当法銀行券ハ月中六一、二四四千円ノ差引トナレリ

(五) 亦ニ国割増定期取扱状況
亦一回ニ以テ決算評判悪キニ前回程度ヲ成績ハ收
得ハシ十一日現在番号取付書左ノ如シ

八十二 一三、〇〇〇 千円

安田 二五〇

御 七五〇

農事会 一〇、〇〇〇

無 一五

右、内農事会ニ付スル者初割当ハ一〇、〇〇〇千円ナルモ、詳細
迄ニハ一千五百千円ハ獲得シ得ルモ、但シ当座ヨリノ
振替相当多額ニ上リ居ル由

(六) 第二回種券取扱状況

本割割当一四、〇〇〇千円ノ内、銀行取存分ハ賣盡シタル

取扱ナルモ、農事会ニ付テハ若干(二十五千円ノ内ニ割当)

賣残アリ、十一日迄ニ於テ農事会ニ返付、御事銀行ニ

引渡シタルモノ七、五〇〇千円(七五〇枚)ナリ。因ニ第一回割当

二十五千円モ、發行不良ニテ、單位農事会ニ付於タルモノ

若干ナリタル状況ナレバ、今回、割当ハ、先令過重ナリトモ、三々

当期统计 (单位: 千元)

十一月 中

前年同月

比较增减 (%)

299
212
492
297

一、国神金		二、银行券		三、货币	
受	四二、三三二	一〇、五五四	二二、八五〇	二二、八五〇	一〇、三〇〇
支	一四、四一三	六、一九三	二、三〇〇	二、三〇〇	一、一〇〇
差引(受起)	二六、八一九	一三、八二二	二〇、五五〇	二〇、五五〇	九、二〇〇
选收	一六、六七八	六、一九三	二、七五四	二、七五四	七、七三一
差引(选起)	六、一三四	八、九四七	三、三三〇	三、三三〇	三、三三〇
流入	三、四〇〇	二、七五四	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇
流出	一、九四五〇	二、一〇、二五〇	一、九四五〇	一、九四五〇	一、九四五〇

支店長

次長

百円券流通状況

十六年以降、当店窓口ヲ通ル百円券ノ受払状況別表ノ

如シ。即ハチ上下兩期ヲ通シ逐年受入増加。支払減少ノ

傾向ヲ示シ之ヲ上半期ノ数字ニ付テ見ルニ受入

二四二名(一般銀行券二二名)ト増加セルニ及シ支払ハ九七名

(二四二名)ト十六年度ノ其ヲ下廻リ從テ受払状況

受取 二六八名ト激増。銀行券(合計)ノ二三九名ニ比

シニ倍弱ノ増勢ヲ示セリ。

19.11.27



次ニ受松銀行券中ニ占ムル百円券ノ割合ハ受入三三%ヨリ

三八%ト五%増ニ計シ支払ハ一八%ヨリ四%ニ減少

斯ノリ巷間噂ノ如ク百円券ノ流通増加ヲ反映セルガ

事此ノ支払者減シ居レバ結局軍需工場疎用者

買出客等ノ軒外ヨリ持込増加セルモノト見ルベシ

昭和十六年以降 百円札 受取状況

上半年期 (一月 - 六月)

受入		払出		差引	
銀行券	百円券	銀行券	百円券	銀行券	百円券
16 五七六四九 (一〇〇)	一九二四三 (三〇)	一六二九九 (一〇〇)	二九〇六 (三〇)	四一五八〇 (一〇〇)	一六三三七 (一〇〇)
17 七三〇三七 (三三)	二六三六七 (三三)	二六九六八 (二六)	三、二九八 (二二)	四六〇五九 (三三)	二二九九九 (二四)
18 八〇九〇四 (一四)	三三三八一 (三三)	三一一九五 (一九)	四、四五六 (一五)	四九七〇九 (三〇)	一八九三九 (二六)
19 三三、四八九 (三三)	四六、四九九 (三三)	六六、九三六 (四二)	二、八〇六 (九)	五八、〇五三 (三三)	四三、七五三 (二六)

下半年期 (七月 - 十二月)

16 二九、一九八 (一〇〇)	一一、〇四〇 (一〇)	五五、八三二 (一〇)	五、〇二八 (一〇)	二六、五五八 (一〇)	七、〇一一 (一〇)
17 六、〇四〇七 (三三)	二〇、三三八 (三九)	五四、九九九 (一九)	八、〇五〇 (一六)	五、四〇八 (一)	一三、三〇八 (二七)
18 六、四、三三 (三三)	三、五、七八 (三三)	六、四、四一五 (二七)	七、七八二 (二四)	一、一、一一 (一)	一、八、四三三 (三三)